

令和7年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市宇宙劇場					
(2)施設概要	①所在地 さいたま市大宮区錦町682番地2 JACK大宮 ②施設の設置目的 市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため ③施設の概要 昭和62年8月1日開館 鉄筋コンクリート造 地上18階建のうち(3, 4, 5階部分) 3～5階:ホール 傾斜型ドーム(直径23m)座席数 280席(車いす席あり) 5階:第1集会室・第2集会室(定員各36名)、第3集会室(定員20名)、研修室(定員48名)					
(3)指定管理者	株式会社五藤光学研究所					
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和5年度117,568千円、令和6年度117,568千円、令和7年度117,568千円					
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・会議室等利用者数45,106人(前年度49,349人) ・ホール関連事業利用者数69,860人(前年度68,757人) ◇業務実施状況 ・集会室等の貸出し ・プラネタリウムの投影、全天周ドーム映像の上映 ・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施 ・天文・科学・文化の普及活動・地域団体への支援活動 ・利用促進・広報活動 ・YAC(日本宇宙少年団さいたま支部)事務局運営及び活動支援 ②維持管理業務の状況 ・施設設備、備品等の保守管理 ・施設の清掃 ・施設の機械警備					
(6)収支状況	収入(費目)	収入(金額)	前年度	支出(費目)	支出(金額)	前年度
	利用料金収入	36,782千円	(37,006千円)	人件費	111,274千円	(99,231千円)
	指定管理料	117,568千円	(117,568千円)	事務費	3,622千円	(1,980千円)
	その他の収入	0千円	(360千円)	施設管理費	9,526千円	(9,163千円)
				事業費	20,187千円	(30,434千円)
				その他の管理費	8,845千円	(9,088千円)
	【自主事業】					
	収入	2,099千円	(12,014千円)	支出	1,515千円	(11,118千円)

(7) 利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	世界的に活用されている「NPS®」(Net Promoter Score:NPS)を含めたアンケートを年間を通して実施した。NPSは顧客満足度にとどまらず、施設ファンを推定する顧客推奨度を測定するものである。アンケート回答者には、NPSの評価を決めるに至った体験等の満足度も併せて回答を求めた。そのデータにより、提供しているサービスの個々の満足度を求めるとともに、どのサービスが顧客推奨度に影響を与えているのか、統計的に分析した。分析結果は、職員間で毎月共有をするとともに、自由記述欄にある改善要望は、下記の通りの対応を行った。なお、年間のNPS値は59.2であった。 【ホール(プラネタリウム)】 ・利用者の「私語がうるさいのでうにかして欲しい」という要望に対して、投映前に注意喚起アナウンスを行った。また投映中に投映補助者が随時お声掛けをした。 ・全天動画番組の「銀河鉄道の夜」の再投映を希望する要望がいくつか見られたことから再投映を行った。 【集会室・研修室】 ・利用者の体感温度の違いによる「暑いので部屋の温度を下げて欲しい」「寒いので部屋の温度を上げて欲しい」等の要望に対して、随時ビル管理業者に連絡を取り、多くの利用者にとって快適な環境の提供を心がけた。 ・コンセントが足りないという要望に対しては、延長ケーブルを購入し、無償貸し出しを行った。 【その他】 ・プラネタリウム投映前後の待ち時間に見る展示物等が少ないという要望に対して、企画展示スペースを拡充し、参加型の企画展を実施する等の工夫を行った。
(8) その他	・職員全員で仕事の成果目標を揃えることを目的に、ミッション・ビジョンに沿った3年間の中期計画を作成し、これに基づいた運営を行った。 ・「さいたま市宇宙劇場施設活用検討委員会」の協議に基づき、集会室等の貸し部屋事業の活用促進を進めるため、貸し部屋のPRチラシを作成し、市内ホテル等に設置した。

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
市民の平等利用のための方策	- 職員全員がインクルーシブな視点を持ち、年齢、性別、地域、学校、職業、障害、国籍等に関係なく、全ての市民が安心・快適に過ごせる施設作りとして、以下に挙げる取り組みを実施した。 - ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、全職員に対して社会教育施設向けの接遇研修のほか、法改正に伴う合理的配慮の研修等を実施した。 - 業務マニュアルの整備、更新を行った。現在運用中の法令に基づいた各種業務マニュアルを日々更新し、あらゆる利用者に対して公平となる様努めた。 - 障害者への対応として、耳の不自由な方への対応：筆談ボードの用意、字幕付き“投映前インフォメーション”、ヒアリングループ（磁気ループ）に対応した補聴器の貸出しを行った。目の不自由な方への対応：触れる星座絵（点字付き）の用意、プラネタリウムではスピーカーの音像移動の機能を活用した案内を行った。 - さらには、身体が不自由な方への対応：車いす席の用意、車いすの貸出し、階段の少ないルートからの場内案内、駅から館までのバリアフリールートの案内を行った。職員のサポートを必要とする方への対応として、プラネタリウムの出入口に近い席を「サポート席」とし、障害のある方や、小さなお子さま連れの利用者が安心して出入りできるよう配慮した。
施設の安全管理	「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」を基本とし、さいたま市消防局の指導のもと大宮情報文化センターの防災避難訓練（地震・火災）へ参加した。 - 宇宙劇場独自の防災避難訓練（地震、火災）も実施した。 - 閉鎖障害などの対策として、毎日自主検査を実施し、施設設備等の事故防止点検を毎月実施した。 - JACK大宮防火・防災チェック運動に参加して、テーマに対しての点検を毎月実施した。 - AEDのバッテリー状態を確認し、必要な時に使用できるように管理した。 - 新人職員には救命救急講習を受講させた。 - 毎日、定期的に館内を巡回し、不審者、不審物への警戒を行った。
利用促進・広報活動	- 広報活動促進 インターネットやSNSを用いた広報活動の促進を図るため、ホームページの随時更新を行うとともに、「X(旧Twitter)」公式アカウントにより宇宙劇場のイベント情報や投映内容を積極的に発信した。 - パブリシティの強化 電子媒体、書籍問わず、積極的にプレスリリースを発信し、読者層の異なる幅広い世代へアプローチした。 - 地域施設との広報連携 大宮区内における各施設との協力事業を広報するとともに、地域施設へ広報連携を依頼し、広報活動の強化・認知度の向上を図った。 - 地元FMラジオ局のNACK5との連携 NACK5の番組に当館職員が出演し、天文・宇宙に関する話題を提供するとともに、当館事業の紹介を行った。 - その他広報活動 集会室事業宣伝のため新規広報物(2種)を作成し、さいたま市内公共施設のほか、大宮駅近辺のビジネスホテル、市外学童保育施設等に配付・設置した。また、新規ポスター(2種)を大宮区内自治会の掲示板やJR駅構内、郵便局等へ設置した。 - 地域事業への参加 地域活性会議TEAM大宮の会合へ出席し、当館事業を紹介したほか、TEAM大宮が推進する地域の清掃活動に参加し、大宮区内の各企業と連携を図った。 - 貸し部屋検索サイトへの掲載 集会室・研修室利用促進および新規顧客開拓のため、外部の検索サイトへ施設情報を掲載した。 - さいたま市との連携活動 さいたま市と連携し、さいたま新都心駅大型映像装置、およびステラタウンステージビジョンへ、プラネタリウムの紹介トレーラーを継続して毎月再生した。
プラネタリウム番組枠の弾力的な運用	- 来館者ニーズに合わせた投映の実施 「みんなの時間」「星空の時間」「こどもの時間」「音楽の時間」などの番組枠を運用し、お客様のニーズに合ったプラネタリウム投映を提供した。 - 学習利用、幼児団体投映の開催 学習投映では、青少年宇宙科学館と連携し最新システムを活かした投映を実施した。また、市内の幼児団体へ団体投映実施の案内を送付し、幼児団体向けの貸し切り投映を実施した。 - 星をみる会＋特別投映の実施 実際の空の下での肉眼及び望遠鏡による観察の前に、事前学習としてプラネタリウム内でその日観察できる天体及び、星・星座の探し方を紹介した。これにより観察・体験の深化ができた。また、雨天時は投映内容を変更することで、観望会部分が中止となった場合も一定以上の体験を提供できるよう、雨天時プログラムを実施した。
プラネタリウムオリジナル番組の自主制作	「音楽の時間」の新作制作 SF映画音楽をモチーフに、天文学や宇宙開発の歴史をたどる「2026年宇宙の旅」を製作・投映した。 - 投映プログラムの企画・制作 以下に挙げる「星空の時間」の新作テーマを企画・制作し投映した。 【たなばた文化いまむかし】 【天の川の正体】 【宇宙人を科学する】 【ざんねんな星座たち】 【木星の衛星エウロパ-生命は存在する?-】 【盆栽が見た100年の星空】 ※上記の盆栽をテーマにした制作においては、プラネタリウム100周年と大宮盆栽村100周年の節目が重なったことから、大宮盆栽村や大宮盆栽美術館と連携した内容とし、地域連携も含めた取り組みとした。
公演イベントの実施	- 爆笑！星兄プラネタリウムショー 全国のプラネタリウムで活躍している星空案内人、星兄による爆笑！星兄プラネタリウムショーを実施した。 - Starry Live presented by さいたま市宇宙劇場 プラネタリウムを会場に、アイドルグループ6組27名によるライブパフォーマンスと、それぞれのアイドルグループの代表者によるリレー形式の星空解説のプラネタリウム投映を実施した。

地域支援・市民協働の推進	・YACさいたま支部支援業務 日本宇宙少年団さいたま支部の事務局運営及び活動支援を行い、各分団長やボランティアリーダーと連携し、年間計35回の各種支部および分団活動を支援した。 ・市民協働によるプラネタリウム投映 市民が企画・投映するプラネタリウム「市民の時間」の時間枠をとり、実施に必要な支援として、市民団体さいたまプラネタリウムクリエイトに対しリハーサル15回を実施し、全6回の投映を実施した。 ・星を見る会におけるボランティアとの協働 観望会事業において、市民ボランティアの活躍の場を設けた。ボランティア自身の自己実現だけでなく、参加者の受入れ人数や紹介する天体数を増やすことができ、当館単独では困難な規模の観望会を実現した。
教育普及業務	・星をみる会の実施 新規に電視観望望遠鏡を導入し、望遠鏡で天体を見ることが難しい利用者へもインクルーシブな観望会を実施した。 ・ライブビューインギングの実施 日本国内でのロケット打ち上げや、皆既月食イベント時に海外の天文台とインターネット望遠鏡を用いたリアルタイムでのライブビューイングを実施した。 ・放送大学との連携による共催事業 同じ大宮情報文化センターに入居する放送大学埼玉学習センター様と連携し、ノーベル物理学賞受賞者である梶田隆章氏による講演会を実施した。 ・JAXA職員講演会の実施 国際宇宙探査センター事業推進室の中村隆仁氏によるこども向けの講演会を実施し、幅広い年代に対して学びの機会を提供した。 ・近隣施設との連携による情報発信 上記の通り、大宮盆栽美術館と岩槻人形博物館と連携し、展示連携、ポスターを掲示、チラシ配布した。
学校教育支援・学校等連携業務	・学習利用団体投映の開催 青少年宇宙科学館と連携して学習投映を実施した。 (市内小学校33校 中学校20校 中等教育学校1校 特別支援学校1校) ・高校生プラネタリウム文化祭の開催 埼玉県内の高校天文部など6校に対し、プラネタリウム番組の企画・制作・投映の支援を行い、発表の場を設けた。また、ポスターセッションを行い、学びの交流を促進した。 ・出張観望会(スクールサポートサイエンス)の実施 青少年宇宙科学館と連携し、馬宮中学校にて出張観望会を実施した。 ・中学生職場体験「未来くるワーク」の受け入れ 桜木中学校の生徒4名に対し、宇宙劇場ならではの学びと体験を提供した。 ・5年経験者研修社会貢献活動体験研修の受け入れ 埼玉県立大宮中央高等学校の教員2名に対し、宇宙劇場ならではの学びと体験を提供した。 ・全国プラネタリウム大会・研修会への参加 大会・研修会を通して、プラネタリウムにおける機器・コンテンツ・運営のトレンドについて情報交換を行った。また、大会では、さいたま市宇宙劇場のオリジナルキャラクターの活用について研究実績を発表した。 ・埼玉県プラネタリウム連絡協議会への参加 近隣プラネタリウム施設との情報交換会へ会場を提供し各施設との情報交換を行った。 ・JGSSフィルムフェスティバルへの参加 最新のプラネタリウム番組を視聴し、トレンドを把握した。次年度の番組選定に役立てた。
宇宙劇場まつりの実施	さいたま市民の日に合わせ、さいたま市宇宙劇場を会場として①市民の活躍の場の創出、②さいたま市の魅力の再発見をテーマに、全館を挙げた宇宙劇場まつりを実施した。市民活躍としては、市民団体によるプラネタリウム投映、高校生によるプラネタリウム吹奏楽コンサート、市民団体によるサイエンスショーを実施した。また、さいたま市の魅力再発見として、若田宇宙飛行士の活躍を紹介する特別番組を投映したほか、青少年宇宙科学館との連携によるサイエンスショーなどを通して、「宇宙のまち さいたま」の中で、地域と宇宙のつながりを体感できる催しを提供した。

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

さいたま市宇宙劇場の仕様業務において、市の定める宇宙劇場基本方針を職員全員で共有理解し、施設の設置目的を達成すべく、前項に記載した提案事項を実施し、施設の適切な管理運営を行った。また、「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」「経費の削減」「適正な管理運営の確保」について、以下の取組みと業務を行った。

【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進等に関する取組み】

- ・利用案内に関する内規を定め、マニュアル化することで均一な対応とサービスを提供した。
- ・宇宙劇場条例を基本とし、障害者等へは必要な合理的配慮を行い市民サービスの向上を図った。
- ・市民への施設認知度の向上をもって利用促進を図るため、市民団体、地域企業、異分野・異業種の専門家とのコラボレーションを積極的に推進し、普段プラネタリウムを利用しない利用者層へのアプローチも行い、特にプラネタリウム利用促進を図り、利用者数を伸ばした。
- ・貸し部屋事業の利用促進を図るため、新たにチラシを作成し、近隣施設等へ配布した。
- ・来館者アンケート調査を年間を通して実施し、管理や運営へフィードバックし、運営の改善を行い市民サービスの向上を図った。
- ・利用促進として、TEAM大宮向けの施設見学会を実施した。
- ・プラネタリウムメーカー及び映像プロダクションであるノウハウを活用し、市民のニーズにあったオリジナル番組「はじめてのプラネタリウムベビー&キッズ劇場」や「星空の時間～宇宙人を科学する～」などを制作した。その他フィルムフェスティバルも開催し数多くの新作全天周映像番組も放映することで、利用者の満足度向上を図った。

【経費の削減】

- ・貸し部屋業務において、早く利用が終了した部屋等は空調を止め、照明を切るなどこまめな節電を実施した。
- ・毎月定期的に貸出備品の点検を行い、職員によるメンテナンスをすることで故障を未然に防ぎ経費削減をした。
- ・効率的なスタッフの交番シフトを組み、適切な人員配置を行い労務経費を削減した。
- ・消耗品の購入や修繕を行う際には、必ず3社以上からの相見積もりを取り、購入や発注を実施し経費を削減した。
- ・プラネタリウムメーカー及び映像プロダクションであるノウハウを活用し、自社でプラネタリウム番組「星空の時間」を制作することで運営経費を削減した。

【適正な管理運営の確保】

- ・宇宙劇場条例や、運営仕様、協定内容を厳守し、施設の運営を行った。
- ・職員が随時施設内を巡回し、安全確認及び施設の不具合等を確認した。
- ・災害や危機発生時のマニュアルを整備し、定期的な避難訓練を実施した。
- ・プラネタリウム機器、券売機を管理し、システムに不具合が発生した際には、迅速に適切な対応を行い、遅滞なく所管課へ報告を実施した。
- ・清掃業務、夜間警備が確実に実施されているか日々確認した。
- ・業務に必要なスキルを持った人員を配置するために、社内外での研修を実施した。
- ・省エネ(節電)、リサイクル(充電式電池や再生紙の使用)を徹底し、環境への負荷を減らす運営を実施した。
- ・情報セキュリティ対策として、個人情報保護に関する研修会を新入社員に対して実施した。
- ・毎月の事業報告にて施設の利用実績(利用者数、収支、実施事業)の報告を遅延なく行った。
- ・YACさいたま支部の野外体験事業を実施する際もスタッフを動員し、参加団員が安全に活動出来るように支援した。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館)

総合評価 (B) ※A～D

1 項目別の評価

- ①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進については、全ての利用者が安心・快適に過ごせる施設づくりとして、ユニバーサルデザインの考え方にに基づいた接遇研修の実施及び合理的配慮の研修を実施した。また、来館者アンケート調査を年間を通して実施し、フィードバックすることにより運営の改善を行い市民サービスの向上を図ることができた。
- ②経費の削減については、適正な人員配置による労務経費の削減、プラネタリウムメーカー・映像プロダクションであるノウハウを活用した番組を制作することで運営経費を削減することができた。
- ③適切な管理運営の確保については、条例、仕様、協定内容を厳守し、施設運営を行っていた。また、業務に必要なスキルを持った人員を配置するための研修、情報セキュリティ対策、個人情報保護に関する研修を実施し、適切な管理運営を確保することができた。

② 総合評価

プラネタリウムメーカーのノウハウを活用した施設運営を行い、市民サービスの向上、経費削減を図っており、市が求める水準を満たしていることから総合評価をBとした。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き、市民サービスの向上、利用者促進、経費の削減を図る取り組みを推進するとともに、市民サービスの向上等につながる取り組みを実施するよう指導していく。